

「まだ悟らないのですか？」とイエスのことば。 悟るべき事とは何でしょう。

1. パリサイ人が悟るべきことは、「この時代はなぜ、しるしを求めるのか。まことに、あなたがたに言います。今の時代には、どんなしるしも与えられません」（12 節）です。マタイ、マルコ、ルカの共観福音書での“しるし”は、「神の権威をしめす、有無を言わせぬ証拠」という意味です。パリサイ人が求めたのはこの試すためでしたので、イエス様は退けました。なぜなら彼らはどんなしるしを見てもそれを信じることはできないし、たとえ与えられてもしるしの意味を悟らないということだと思えます。

復活後のイエス様のトマスへの言葉は「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」でした。既に与えられているしるしからイエス様が救い主であることは分かります。人々がイエス様を信じられる為に、聖霊が人々の心を捉えて下さるようにと求めて祈りましょう。

2. 「パン種に気をつけなさい。」 14-15 節 イエス様と弟子たちとの会話です。

イエス様は『パリサイ人のパン種とヘロデのパン種には、くれぐれも気をつけなさい。』と言いました。パン種は、神の国の譬でも使われますが、ここでは腐敗の意味、即ち悪の象徴と考えられます。

3 章 6 節で、パリサイ人がヘロデ党の者たちと一緒に、イエス様を殺す相談を始めていますので、イエス様を殺すために画策するパリサイ人たちに気を付けるようにということです。ヘロデとはヘロデ王のことで、不品行、殺人、敬虔さを装う事などの悪を行う人に対して、気を付けるべきです。

私たち自身も自分の罪や悪に気付いたらすぐ離れること、切り離せるものなら切り離すべきです。小さな腐れを放っておくと全体が腐ってきます。パン種のように罪と悪は増えるのです。でも人間は自分で罪から離れることや自分の罪を赦すことはできません。イエス様が罪を引き受けてくださることを信じで救われます。それが身代わりに十字架に掛かることでした。

3. 「悟るべきしるし」 16-21 節 イエス様のことばを受けて、弟子たちは議論し始めました。

「まだ分からないのですか、悟らないのですか。心を頑なにしているのですか。目があっても見ないのですか。耳があっても聞かないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。」イエス様はこう、弟子たちに問いかけました。弟子たちに対しては、期待があります。共にいたイエス様の行ったしるしを「分かって欲しい。悟って欲しい。心を柔らかくして欲しい、見て欲しい。聞いて欲しい。覚えていて欲しい。」と願いました。そうすれば彼らの信仰が確かなものとなるからです。

イスラエルにも、異邦人にもパンが与えられています。イエス様はヨハネの福音書で「わたしはいのちのパンです」と言われました。イエス様と言ういのちのパンが全て信じる人びとに与えられるのです。人々を救う「いのちのパン」を私たちに与える為にイエス様は人となられ、十字架で実現されました。

結語 イエス様は全てイエス様に頼る人に対して、その人の願いを超えて良きことをして下さいます。

イエス様のパンの奇跡、自然への力、悪霊の追い出し、病の癒し、視聴覚障害の癒しなどイエス様のしるしは、父なる神のことばである聖書の中にたくさんあります。

最高のしるしは、イエス様が十字架に掛かり、死なれたこと、よみがえられたこと、天に上られたことです。そして約束の聖霊が送られたことです。聖霊は私たちをいつも助けて下さいます。これらはイエス様の私たちに對する「愛のしるし」です。この「しるし」はわたしたちを救う「希望のしるし」です。その為に、神のことばが私たちに与えられています。